

## 遠藤 保子教授 略歴と業績

### I. 略 歴

- 1952年12月 福島県に生まれる  
1975年3月 東京教育大学体育学部健康教育学科卒業  
1986年3月 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科比較文化学専攻博士課程単位取得満期退学  
1994年4月 立命館大学産業社会学部助教授  
1997年4月 立命館大学産業社会学部教授  
2018年3月 学校法人立命館立命館大学定年退職  
2018年4月 立命館大学名誉教授

#### (主な学内役職歴)

- 1999年4月～2000年3月 産業社会学部学生主事  
2003年4月～2004年3月 保健体育教室主任  
2004年4月～2006年3月 キャリアセンター副部長  
2006年4月～2008年3月 保健体育教室主任  
2009年4月～2013年3月 大学協議員  
2014年4月～2017年3月 学生部副部長

### II. 専門分野

- 専門分野 舞踊学, スポーツ科学  
担当科目 身体表現論, スポーツ教育論実習, スポーツ文化論  
学位 社会学博士(立命館大学, 2002年9月)  
研究課題 パフォーマンスとオルタナティブ・スペース, アフリカの舞踊  
所属学会 スポーツ史学会, 日本スポーツ人類学会, 舞踊学会, 日本ナイル・エチオピア学会, 日本体育学会, アジラスポーツ人類学会

### III. 主な研究業績

#### 著 書

1. (単著)『タムタム・イン・ヨルバ〜ブラックアフリカの村に住んで〜』(講談社, 1984年)全252頁
2. (翻訳協力)『人間と音楽の歴史—北アフリカ—』(ポール・コラルル, ユルゲン・エルスナー編, 音楽の友者, 1986年)全206頁
3. (単著)『京舞井上流家元三世井上八千代—祇園の女風土記—』(リプロポート, 1993年)全239頁
4. (単著)『舞踊と社会—アフリカの舞踊を事例として』(文理閣, 2001年)全211頁

5. (単著)「身体表現の世界」(『方法』としての人間と文化) 佐藤嘉一編, ミネルヴァ書房, 2004年) 98-111頁
6. (共著)「舞踊の記録・保存・伝承に関する歴史的考察・アフリカの舞踊を事例にして―」(『スポーツ学の冒険―スポーツを読み解く「知」とは』船井廣則・松本芳明・三井悦子・竹谷和之編著, 黎明書房, 2009年) 68-77頁
7. (共編著)「スポーツと開発教育―モーションキャプチャを利用したナイジェリアの舞踊を事例とした教材と指導計画―」(『体育・人類・文化』寒川恒夫主編, 北京体育大学出版社, 2010年) 224-230頁
8. (共編著)「今日のアフリカにおける舞踊の伝承と保存―ナイジェリアの国立舞踊団を事例として―」(『舞踊学の現在～芸術・民族・教育からのアプローチ～』遠藤保子・細川江利子・高野牧子・打越みゆき編著, 文理閣, 2011年) 147-161頁
9. (共著)「今日のケニアにおける舞踊と音楽」(『現代スポーツ論の射程』金井淳二・草深直臣監修, 文理閣, 2011年) 275-295頁
10. (共編著)『無形文化財の伝承・記録・教育―アフリカの舞踊を事例として―』(遠藤保子・相原進・高橋京子編, 文理閣, 2014年) 全227頁

## 論 文

1. (単著)「身体とリズムのコミュニケーション」(『世界の国シリーズ12 エジプト・アフリカ』講談社, 1983年) 132-143頁
2. (単著)「ヨルバにおける舞踊―オヤンのオグン祭りを事例として」(『舞踊学』第7号, 舞踊学会編, 1984年) 12-20頁
3. (単著)「ナイジェリアに関する舞踊人類学の動向―60-70年代を中心に―」(『舞踊学』第8号, 舞踊学会編, 1985年) 12-20頁
4. (単著)「ヨルバの舞踊と音楽」(『民族芸術』第5号, 民族芸術学会編, 1985年) 12-20頁
5. (単著)「ヨルバ族の女性と音楽」(『民俗音楽叢書2 女性と音楽』八木祐子編, 東京書籍, 1990年) 300-312頁
6. (単著) Dance in Yoruba : case study comparing Yoruba dance in churches and in traditional festivals (『京都教育大学紀要A』第76巻, 1990年) 133-154頁
7. (単著)「スポーツ環境としての民族」(『スポーツをとりまく環境』中村敏雄編, 創文企画, 1993年) 102-127頁
8. (単著)「パフォーマンスとオルタナティブ・スペース」(『立命館大学産業社会論集』31巻3号, 1995年) 65-79頁
9. (単著)「青少年のユースサービスに関する―考察―創造活動を支援するための場合の整備―」(『立命館大学教育科学研究』7号, 1996年) 71-83頁
10. (単著)「舞踊人類学の国際動向」(『体育学研究』44巻4号, 日本体育学会編, 1999年) 325-333頁
11. (単著)「ダンスのフィールドワーク：課題と成果還元をめぐる」(『体育学研究』44巻4号, 日本体育学会編, 1999年) 325-333頁
12. (単著)「舞踊人類学に関する研究動向と文献紹介」(『舞踊学』第23号, 舞踊学会編, 2000年) 119-124

頁

13. (単著) Dance in Yorubaland: Case Study of the Ogun festival in Oyan (*Intercultural Musicology* Vol.3 Nos.1-2, The Bulletin of the Centre for Intercultural Music Arts, 2001) pp.11-17
14. (単著)「グラフノーテーションによる舞踊研究—ナイジェリアの舞踊を中心として」(博士論文, 2002年) 全285頁
15. (単訳) Dancing with Musical Examples (F. R. G. S 著, 『立命館経済学』52巻5号, 2003年) 448-463頁
16. (共著)「動作分析にみる鹿児島県奄美舞踊の表現特性」(高橋京子・小島一成・八村広三郎『人文科学とコンピュータシンポジウム Symposium Series』Vol.2003 No.21, 情報処理学会, 2003年) 71-78頁
17. (単著)「舞踊と文化」(『教養としてのスポーツ人類学』寒川恒夫編, 大修館書店, 2004年) 75-82頁
18. (単著)「アフリカの舞踊研究」(『体育学研究』50巻2号, 日本体育学会編集, 2005年) 163-174頁
19. (共著)「青少年を支援する専門職(ユースワーカー)養成と力量形成—ランカスター大学セント・マーチンズ・カレッジのカリキュラムを中心として—」(水野篤夫, 『立命館人間科学研究』12号, 2006年) 45-54頁
20. (単著)「現代アーティスト嶋本昭三とパフォーマンス」(『立命館産業社会論集』42巻2号, 2006年) 109-123頁
21. (単著)「ケニアの舞踊—ボーマス・オブ・ケニアを中心として」(『スポーツ人類学研究』7・8合併号, 日本スポーツ人類学会編, 2007年) 43-50頁
22. (共著)「ユースサービスの方法とユースワーカーの養成プログラム開発—ユースワーカー養成に関する研究会の議論から—」(水野篤夫, 『立命館人間科学研究』14号, 2007年) 85-98頁
23. (共著)「今日のアフリカの社会と舞踊の記録・保存・伝承—ケニアの舞踊とモーションキャプチャー」(八村広三郎・崔 雄, 『アート・リサーチ』8号, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008年) 15-24頁
24. (単著)「スポーツと開発教育—モーションキャプチャーを利用したナイジェリアの舞踊を事例とした教材と指導計画—」(『亜州体育人類学論壇論文集—体育・人類・文化』, 亜州体育人類学曾編, 2009年) 32-38頁
25. (単著)「スポーツ人類学と開発教育—モーションキャプチャーを利用したアフリカの舞踊教材—」(『スポーツ人類学研究』12号, 日本スポーツ人類学会編, 2010年) 1-25頁
26. (共著)「劇場におけるアフリカの民族舞踊」(松田凡, 『立命館産業社会論集』47巻1号, 2011年) 27-48頁
27. (共著)「劇場におけるアフリカの民族舞踊—ガーナの民族舞踊公演を事例として—」(松田凡・相原進, 『立命館産業社会論集』47巻4号, 2012年) 139-157頁
28. (共著)「ナイジェリア国立舞踊団と舞踊のデジタル記録・保存」(『立命館産業社会論集』48巻4号, 相原進・八村広三郎, 2013年) 1-18頁
29. (単著)「アフリカの舞踊とグローバル教育に関する基礎的研究」(『学術研究』29巻, 公益社団法人日本女子体育連盟, 2013年) 1-16頁
30. (共著)「ガーナの舞踊と舞踊のデジタル記録・解析」(相原進・八村広三郎・高橋京子, 『立命館産業

- 社会論集』49巻1号, 2013年) 23-44頁
31. (共著)「表現文化と震災復興祈念」(粟谷佳司・平石貴士, 『立命館産業社会論集』49巻4号, 2014年) 23-44頁
  32. (単著) Dance Documentation, Preservation, and Digital Recording (*Dance Research Journal of Korea* vol.72-5, 2014) pp.105-113
  33. (共著)「坦桑ニア舞蹈と舞蹈の數位記録, 解析 (The Digital Recording and Analysis of Tanzanian Dance)」(相原進, 『身體文化學報』19期号, 臺灣身體文化學會, 2014年) 27-47頁
  34. (共著)「エチオピアの舞蹈と舞蹈のデジタル記録・解析」(相原進・野田章子, 『社会変遷 与体育人類学的応対』寒川恒夫・仇牟編, 2015年) 242-248頁
  35. (共著)「ガーナ国立舞蹈団 (Ghana Dance Ensemble) における舞蹈の練習に関する考察」(相原進, 『立命館産業社会論集』51巻3号, 2015年) 125-134頁
  36. (単著)「日本スポーツ人類学会研究活動の動向と展望」(『2016年第4回亜細亞運動人類學國際研討會論文集集』, 2016年) 25-33頁
  37. (共著)「エチオピアの舞蹈特性と舞蹈のデジタル記録・解析・考察(上)」(相原進・野田章子, 『立命館産業社会論集』52巻3号, 2016年) 93-113頁
  38. (共著)「エチオピアの舞蹈特性と舞蹈のデジタル記録・解析・考察(下)」(相原進・野田章子, 『立命館産業社会論集』52巻4号, 2017年) 97-115頁
  39. (共著)「ケニアの舞蹈と舞蹈のデジタル記録・解析・考察」(相原進・高橋京子, 『立命館産業社会論集』53巻4号, 2018年) 85-102頁
  40. (共著)「アフリカの舞蹈に関するデジタル・アーカイブと教育的活用」(相原進・高橋京子, 『立命館産業社会論集』53巻4号, 2018年) 69-84頁

## その他

1. (共著)『農村民俗芸能便覧』(全国農協観光協会, 1989年) 全420頁
2. (単著)「アフリカに関する舞蹈人類学の研究動向」(『舞蹈学』第12号, 舞蹈学会編, 1989年) 44-46頁
3. (単著)「舞蹈のフィールドワーク」(『女子体育』32巻4号, 社団法人日本女子体育連盟編, 1990年) 66-67頁
4. (単著)「遊びの文化化機能」(『体育の科学』第40巻8号, 杏林書院, 1990年) 633-637頁
5. (共著)『養護学校における教師の指導法』(1989~1990年度文部省科学研究費〈総合研究A〉研究報告書, 1991年)
6. (単著)「喜びの感情と非言語コミュニケーション」(『CEL Cultur, Energy and Life』Vol.19, MAY 1992) 36-39頁
7. (単著)「民俗衣装の意味と衣料圏」(『ダンスの教育学5』, 松本千代栄監修編集, 徳間書店, 1992年) 168-171頁
8. (共著)「思いが壁を破って言葉になって出て来た」(倉光弘己, 『対話の誘惑 倉光弘己対談集II』, KBI出版, 1994年) 47-84頁
9. (単著)「(1) ダンスの特性とおこない方」(『新しい体育・スポーツ理論』, 大修館書店, 1994年)

156-158頁

10. (単著)「ダンスの歴史」(『学校体育』48巻11号, 日本体育社, 1995年) 70-72頁
11. (共著)「河内一郎のTALK・と〜くゲスト」(河内一郎, 『ねっとわーく京都』71号1月号, かもがわ出版, 1995年) 8-14頁
12. (共著)『京都における青少年の自己成長システムに関する研究』(1993~1995年度京都市地域研究助成金調査報告書, 1996年)
13. (単著)「京都における「オルターナティブ・スペース」としての寺院」(『舞踊学』第20号, 舞踊学会編, 1997年) 83頁
14. (単著)「スポーツ博物館めぐり日本編 フットボールミュージアム, こどものための博物館 キッズプラザ大阪」(『ひすば』第41号, 日本スポーツ史学会, 1998年) 7-8頁
15. (単著)『舞踊における「劇場」的空間の変遷—今日の京都における「劇場」的空間を事例として—』(財団法人水野スポーツ振興会研究助成金研究報告書, 1998年) 全146頁
16. (共著)『「青少年のリーダーシップを活かす」—青少年の社会参加・自主活動の事例から—』(財団法人京都市ユースサービス協会10周年記念シンポジウム報告書, 1998年)
17. (単著)「ダンスのフィールドワーク研究」(『体育の科学』第49巻3号, 杏林書店, 1999年) 194-197頁
18. (共著)『マルチメディア時代に対応した総合芸術のファカルティデベロップメント研究』(1999~2000年度文部省科学研究費補助金〈基盤研究B-2〉研究成果報告書, 2001年) 全143頁
19. (共著) Children's games from around the world (second edition) (Allyn and Bacon Wm.C.Brown Publishers U.S.A A Person Education Company, 2002年) 23, 58, 77, 87頁
20. (共著) Research Project of the Experimental performance in the alternative space in Kyoto (Julius Charo SHUTU, 国際交流基金最終研究報告, 2003年)
21. (共著)「スタジオ・アトリエ探訪記」(『演習「パフォーマンスと社会」報告集』, 2004年) 全89頁
22. (単著)「新しいダンス教育のために—ケニアのダンスを通して—」(『体育科教育』53巻10号, 大修館書店, 2005年) 28-31頁
23. (共著)「モーションキャプチャを利用した舞踊動作のデジタルアーカイブ化事業」(八村広三郎, 国際交流基金「文化財保存」事業報告書, 2006年) 全30頁
24. (単著)「舞踊, アフリカの舞踊」(『最新スポーツ科学事典』, 平凡社, 2006年) 758-761, 798-802頁
25. (共著) Nigerian Dances and Motion Capture (“Human Body Motion Analysis with Motion Capture” 21st Century COE Program Kyoto Art Entertainment Innovation Research, Ritsumeikan University, 2006年) 87-94頁
26. (単著)「エチオピア南部コエグの人々から学ぶもの」(『女子体育』49巻1号, 社団法人日本女子体育連盟編, 2007年) 10-13頁
27. (単著)「村のダンスと舞踊団」(『月刊みんぱく』31巻5号, 国立民族学博物館編, 2007年) 4頁
28. (共著)『今日のアフリカにおける身体芸術と社会—モーションキャプチャを利用した学際研究』(2004-2007年度文部科学省科学研究費補助金〈基盤研究C〉研究報告書, 2008年) 全217頁
29. (単著)「からだとトボスイビデの人々のアバメレスリングダンスを事例にして—」(『舞踊学』第31号, 舞踊学会編, 2008年) 98-101頁

30. (単著) African dance and development education (International Symposium Human Body Motion Analysis with Motion Capture Global COE program Digital Humanities Center for Japanese Arts and Cultures, Ritsumeikan University, 2010年) 75-92頁
31. (共著) An Analysis of Nigerian Dance Movements by Motion Capture System (Susumu AIHARA 他, International Symposium Human Body Motion Analysis with Motion Capture, 2011年) 77-81頁
32. (単著) 「舞踊」(『アフリカ学辞典』, 昭和堂, 2014年) 58-59頁

#### IV. 社会における活動

- 1989年 ～2002年 財団法人京都市ユースサービス協会理事
- 1990年 ～1995年 近畿放送 (KBS 京都) 番組審議会委員
- 1990年10月～2004年11月 京都市青少年問題協議会委員
- 1991年12月～1993年11月 青少年育成総合計画 (仮称) 策定委員会
- 1992年 6月～1994年 5月 新京都市基本計画審議会委員
- 1993年 4月～2006年 3月 日本体育学会評議員
- 1993年 7月～2002年 6月 京都市青少年問題協議会専門委員
- 1994年 2月～2002年 1月 京都市公文書公開制度運営審議会委員
- 1995年 ～1998年 スポーツ史学会理事
- 1997年 8月～2002年 7月 京都府新しい行政推進懇話会委員
- 1999年10月～2004年 9月 京都芸術センター運営委員会委員
- 2002年 ～2003年 財団法人京都市ユースサービス協会専務理事
- 2003年11月～2010年 3月 京都市芸術文化特別奨励制度専門委員会委員
- 2003年 6月～2007年 5月 京都府青少年育成協会評議員
- 2003年 6月～2014年 6月 財団法人京都市ユースサービス協会理事長
- 2004年12月～2014年 6月 京都市青少年活動推進協議会委員
- 2004年 1月～2008年 1月 社会福祉協法人京都市社会福祉協議会評議員
- 2004年 4月～2007年 3月 舞踊学会理事 (事務局)
- 2004年 4月～2010年 3月 日本スポーツ人類学会理事
- 2005年11月～2006年 京都市グリーンワンダーランド跡地活用懇談会委員
- 2005年 6月～2018年 6月 財団法人京都ユース・ホステル協会理事
- 2006年 2月～2008年 1月 京都市地域文化会館におけるフランチャイズ (活動拠点) 団体第1次選考委員会委員
- 2007年 ～2014年 6月 京都市青少年活動推進協議会委員
- 2007年 4月～2013年 3月 舞踊学会理事
- 2007年 9月～2009年 8月 「京都市ユースアクションプラン」事業認証基準等策定委員会委員
- 2008年10月～2011年 3月 京都芸術センター評議会委員
- 2008年 4月～2012年 3月 野洲市立北野小学校学校評議員
- 2008年 7月～2012年 3月 京都市芸術文化特別奨励制度審査委員会専門委員会委員
- 2009年11月～2014年10月 アジアスポーツ人類学会理事

- 2009年7月～2011年6月 京都市公共ホールの在り方検討委員会委員
- 2010年10月～ 公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団審査委員
- 2010年4月～2013年4月 日本ナイルエチオピア学会監事
- 2011年4月～ 公益財団法人京都市芸術文化協会京都芸術センターアドバイザーボード委員
- 2011年4月～2012年3月 日本スポーツ人類学会監事
- 2011年4月～2013年6月 社団法人日本体育学会代議員
- 2011年8月～2012年7月 独立行政法人日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員
- 2012年10月～2016年3月 京都市芸術新人賞等選考委員会委員
- 2012年11月～2014年10月 野洲市男女共同参画審議会委員
- 2012年4月～2016年3月 スポーツ史学会理事
- 2013年4月～2016年3月 日本スポーツ人類学会会長
- 2013年4月～2016年3月 舞踊学会常務理事
- 2014年10月～2016年5月 アジアスポーツ人類学会副会長
- 2014年12月～2016年11月 独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員
- 2014年6月～ 公益財団法人京都市ユースサービス協会顧問
- 2016年4月～2019年3月 舞踊学会理事
- 2016年4月～2019年3月 日本スポーツ人類学会監事

以上